

核データニュース編集小委員会報告

■核データニュース編集小委員会

喜多尾憲助(元放医研)、井頭政之(東工大)、石川 眞(原子力機構)、岩本 修(原子力機構)、
中川庸雄(元原子力機構)、渡辺幸信(九大)、山野直樹(福井大)、大塚直彦(IAEA)、
中村詔司(原子力機構)、小浦寛之(原子力機構)

(敬称略、順不同)

■核データニュース発行報告

発行:核データニュースを下記のとおり発行いたしました。執筆者の皆様、ご協力ありがとうございました。

●2016年第114号(通巻第150号) 2016年6月28日(火)発行

主なトピックス:

○更田豊治郎さんを偲んで

○日本原子力学会「2016年春の年会」

核データ部会企画セッション「ミューオンの物質内輸送とその学際的応用」-1

○PHYSOR 2016に参加して

○第28回 NEA 核データ評価国際協力ワーキングパーティ(WPEC)会合報告

○2015年度核データ部会賞学術賞 – $^{77}\text{Se}(\gamma, n)$ 断面積測定と $^{79}\text{Se}(n, \gamma)$ 断面積の不確かさ評価 –

発行準備:現在核データニュースを下記の予定で発行準備中です。執筆者の皆様、ご協力よろしくお願ひします。

●2016年第115号(通巻第151号) 2016年10月

予定している主なトピックス:

○岡本浩一さん追悼記事

○日本原子力学会「2016年春の年会」

核データ部会企画セッション「ミューオンの物質内輸送とその学際的応用」-2

○Fission Yields: current status and perspectives in measurements, theory and evaluations(IAEA)

○IAEA 国際技術会合(TM)「放射線損傷に関する核反応データと不確かさ」(IAEA)

○Nuclei in the Cosmos (Niigata)

○INDC (IAEA)

○R-Matrix の会議 (Santa Fe)

○第5回 ANNRI 研究会 (東工大)

○光核データと γ 線強度関数に関する第一回 CRP 会合

○NEA Data bank の改組

* 来週9月11日-16日にベルギーにてND21016が開催されます。会議の内容は2017年2月の第116号に掲載予定です。参加者の方のうち何人かの方に執筆を依頼いたしております。ご協力宜しくお願ひします。

*核データニュースには号の最後に「あとがき」を設け、各編集委員の文書を掲載しています。

No.114の渡辺委員のあとがきを紹介します。核データ分野における活動に関する紹介と、来週ND2016に関する内容があります。ご参考に願います。

核データニュース No.114 あとがき (p.64)

2016年春の年会で核データ部会企画セッションを担当いたしました。本号の会議のトピックス(I)にその趣旨説明と講師の方々の解説記事が掲載されておりますのでご覧ください。本企画セッションでは、原子力分野で近年注目されているミュオンを取り上げました。私とミュオンとの出会いは、2003年にウプサラ大を訪問した際に遡ります。その当時、同大 TSL 研究所で中高エネルギー中性子核データ測定を行っていた Blomgren 教授グループが、中性子弾性散乱実験用のドリフトチェンバー数台を用いて、宇宙線ミュオンを用いた使用済燃料キャスク内トモグラフィーのフィジビリティ研究に取り組んでいました。宇宙線と原子力を組み合わせる斬新なアイデアに大変興味を持ちました。帰国後は、PHITSによる簡易シミュレーションを行いその可能性を検討した程度で、実験装置開発までは至りませんでした。その後2011年に金政浩助教が弊研究室に着任したのを契機に、ミュオグラフィー用可搬型検出器開発を本格的に開始し、昨年度試作1号機が完成、キャンパス内建屋の透視に成功した段階です。また、2014年秋からスタートした ImPACT 藤田プログラム(核変換による高レベル放射性廃棄物の大幅な低減・資源化)に参加することになり、負ミュオン捕獲反応を利用した核変換を提案された理研・松崎禎市郎氏(企画セッションの講師)との出会いも、ミュオンに対するさらなる興味を喚起することになりました。これらが縁となって、企画セッションのテーマとしてミュオンを提案した次第です。今後ミュオン関連核データが本格的に収集され、多くのユーザーに利用される時代が来るのかどうか、その予測は難しいですが、学生はじめ若手の方々と一緒にミュオン応用分野の新規開拓と基礎データ取得に向けチャレンジし続けたいと考えております。

さて、2016年9月には核データ国際会議 ND2016 がベルギーのブルージュで予定されています。3月にブリュッセルの空港や地下鉄で発生した連続爆破テロのため、参加には一抹の不安はありますが、二十数年振りのブルージュ訪問とウプサラ大のメンバーも含め多くの友人達との再会を楽しみにしています。次号では ND2016 報告特集が企画されることになるでしょう。参加者各位には編集委員会から執筆の依頼があるかと思いますが、快くお引き受け頂ければ幸いです。

渡辺 幸信 2016年6月

核データニュースを通して部会を盛り上げていくために、部会員の皆様、今後ともご協力の程、宜しく願います。

以上